

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	23	学校名	静岡県立吉原高等学校	校長名	福島由子
------	----	-----	------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基礎・基本的知識及び技能を習得させ、思考力、判断力、表現力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 「他者の授業の良いところを自身の授業に取り入れた」と答える教職員 80% 授業で、「理解確認をしている」と答える教員 100% 「授業がわかる」と答える生徒（保護者）80%以上 公開授業 年間2回以上 「ICT 機器を活用し授業を展開できる」と答える教職員 100% 「学びの基礎診断」を学習指導に役立てている教員 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 96.3%(a) 96.3%(a) 生徒 82.6%(a) 保護者 71.1%(b) 3回(a) 81.4%(b) 48.1%(c) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究期間や定期訪問等で授業を公開する機会を増やしたことで、他者の授業から学ぶことができた。 昨年度までの授業研究や学習評価で生徒の理解確認ができるようになった。 教員の授業研究による効果により授業がわかる生徒が目標に達したが、保護者の捉えは低かった。 授業研究期間を1・2学期に各1回、ICT活用授業の公開を1回。 ICT機器の活用授業は、教材提示以外のスキル習得が課題と感じる教員が多い。 「学びの基礎診断」で生徒の行動傾向や学習状況を把握する方法の修得が課題。
イ	認め、褒め、励ますことで自己肯定感を高め、他者との良好な関係を築く力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶ができています」と答える生徒 100%、保護者 90%以上 「自分は価値ある人間である」と答える生徒の割合 70%以上 「先生はよく褒め、認め、励ましてくれる」と答える生徒（保護者）85%以上 「生徒をよく褒め、励ますように心がけている」教員 100% 自分の思いや考えを言語化できる生徒 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒 92.1%(a) 保護者 76.9%(b) 67.5%(b) 生徒 83.2%(b) 保護者 80.2%(b) 100%(a) 80.7%(b) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶はできているが、保護者や外部の方等への挨拶ができるようにしたい。 本校の育成すべき資質能力の一つである自己肯定力の育成を推進したい。 教員の心がけによりほぼ達成しているが、まだ十分ではない。 教科の授業に加え、総合的な探究の時間や特別活動も含め、表現・実行力の育成方法が課題。
ウ	自主・自律の精神を育み、自己決定する力を育成	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒の割合 80%以上 1週間の家庭学習時 	<ul style="list-style-type: none"> 78.3%(b) 1年 1.8時間 	A	<ul style="list-style-type: none"> 宿題や課題であっても自分が必要と判断できる主体的態度の育成を検討していく。 家庭学習時間調査では学習時間

	<p>する。</p>	<p>間の一日平均が、1・2年生2時間以上、3年生2.5時間以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで授業に取り組む生徒の割合 80%以上 ・学校行事満足度 70% ・ボランティア実践。参加者に事前指導を2回実施し意識を高め、単位習得率 100%となる ・大学主催の講座等への参加 20人以上 ・校内ビブリオバトル実施、及び校外ビブリオバトル大会出場(希望者) ・英語検定等の外部検定で CEFR B-1 以上取得 20%以上 ・「失敗しても努力し続けることができる」と答える生徒(保護者)の割合 80%以上 ・「部活動・生徒会活動は活発に行われている」と答える生徒(保護者) 70%以上 ・「部活動ガイドラインを意識している」と答える生徒・教職員 100% 	<p>(b) 2年 2.4 時間 (b) 3年 3.3 時間 (a) ・91.7%(a) ・79.9%(a) ・3回、100%(a) ・205人(a) ・感染症対策のため実施せず ・3%(c) ・生徒 74.4%(a) 保護者 83.9%(a) ・生徒 89.2%(a) 保護者 89.7%(a) ・生徒 70.6%(b) 教職員 92.6%(b)</p>	<p>が上昇してきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に自ら進んで取り組めるようになっている。 ・高い満足度であった。 ・3年ぶりに再開した。1年生10人、2年生5人の計16名の全員が単位取得。 ・オープンキャンパス、大学出張講座、大学主催講座等へ積極的に参加できた。 ・英検2級に95名が受検し、19名が合格。受検者数と合格者数を増やす指導を常時行っていく。 ・ここでも積極的な姿勢が見られた。 ・十分に満足できる成果だった。 ・目標達成のために、次年度は学期ごとに部活動ガイドラインの確認をしていく。
<p>エ</p>	<p>キャリア教育を推進し、他者と関わりを通して地域に貢献する力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「研究や研究内容を取り入れた授業を実践できた」と答える教員 80%以上 ・「総合的な探究の時間」が進路選択に役立った生徒 90%以上 ・授業内容等に興味があって本校を選択した生徒の割合 80% ・「進路指導に関して学校と家庭が連携できている」と答える生徒(保 	<p>・81.4%(a) ・68.0%(c) ・56.0%(b) ・生徒 76.9%(a) 保護者 77.3%(a)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習評価の研修等により、指導と評価の一体化が推進されつつある。 ・過渡期にある本校の「総合的な探究の時間」であるが、各学年で進路選択との関連を強化したい。 ・1年生の入学時のアンケート結果である。中学生への広報の仕方が大切である。 ・情報提供と進路研究方法を示し、進路多様化に対応した。面談内容は学年部とすり合わせた。

様式第3号

		<p>護者) 75%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の学校との交流が学習意欲の向上に繋がった 80%以上 ・研修が表現力向上に役立った生徒 80%以上 ・地域等へのボランティアへの参加 年間延べ 550 人以上 ・地域人材の招聘年間 10 回以上 ・各学期 1 回発行する新刊案内や図書館だより、図書館の利用促進により生徒の読書量が増え、「読書は自分を豊かにする」と答える生徒 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 95.3%(a) ・ 90.5%(a) ・196(369)人(b) ・ 16 回(a) ・ 84.0%(a) 		<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な体制づくりや内容の発展を考えた。 ・研修の時期や内容、あり方等を実態に応じて検討した。 ・アンケート結果では 196 人だったが、1 年生 173 人が地域清掃を実施した。 ・1 年 4 回、2 年 2 回、3 年 3 回、生徒課 2 回、国際科 5 回実施。 ・新刊案内や図書館だよりも予定どおり発行し、目標を達成できた。
オ	<p>保健安全教育や教育相談活動を推進し、自己や他人の健康の保持増進に努める力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃参加 100% ・地域防災訓練参加率 100% (生徒・教職員) ・防災教育推進連絡会議年 1 回 ・いじめアンケート実施年 3 回 ・いじめの加害 0 件 被害 0 件 (アンケート調査) ・生徒からのいじめ防止の呼びかけ 年 1 回 ・長期欠席生徒の減少 ・教育相談だより発行 学期 2 回 ・新体力テスト優秀校入賞 ・SNS に関する問題行動 0 人 ・交通安全意識高揚指導 毎月 1 回 ・外部団体と連携した交通安全事業の実施 各学期 1 回以上 ・自転車整備店で年 1 回は整備する ・交通事故死者 年間 0 人、負傷者年間 10 人以下 ・自転車指導カード交 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100%(a) ・生徒(3)%(-) 教職員(30)% (-) ・ 1 回(a) ・ 3 回(a) ・加害 0 件(a) 被害 0 件(a) ・ 0 回(c) ・ 2 人→3 人(b) ・ 1 回(b) ・入賞なし(b) ・ 0 人(a) ・ 1 回(a) ・ 1 回(a) ・ 1 回(a) ・死者 0 人(a) 負傷者 11 人(b) ・ 71 枚(a) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃は全員で取り組んだ。 ・感染症拡大防止、部活動参加、訓練中止等が要因のため評価なしとした。ハザードマップの確認等の代替案も検討したい。 ・目標達成できた。 ・来年度は実施したい。 ・転退学者を除いた人数である。 ・予防のためにも来年度は発行したい。 ・入賞はしなかったものの、ほぼ満足できる結果だった。 ・目標達成できた ・負傷者は昨年度とほぼ同数だった。 ・目標達成した。来年度はさらに

様式第3号

		付枚数 年間 100 枚以下			減少させたい。
カ	適切な事務の執行により信頼される事務室運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・監査・検査等による指示・指摘 件数0件 ・施設、設備、用具等の不備に起因する事故発生件数0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・0件(a) ・0件(a) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・会計処理件数も再び増えている。迅速正確に処理を進める。 ・限られた予算、老朽化が進む施設等の条件は厳しいが、引き続き優先順位を考え、効果的な整備、修繕を進める。
キ	業務改善により本校生徒の成長に真に有効な学校運営を推進する。	<p>【職員集団の組織性、協働性（チーム吉高）の向上と教職員の自己有用感の醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全分掌が年度末までに業務改善を報告できる。 ・「授業改善に役立った」と答える教員 90%以上 ・「部活動ガイドライン」の趣旨を遵守している部活動 100% ・時間外勤務時間前年度比 5%減 ・全教職員の年次休暇取得が前年度比増となる。 ・ホームページ更新 100 回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・83.3%(a) ・81.5%(b) ・92.6%(b) ・1.3%減(b) ・32日6時間10分減(a) ・105回(a) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期終了時点における業務改善終了報告は48件中40件。3つの分掌で取組を継続中。 ・評価基準の作成と活用について各教科でさらに研究が必要である。 ・目標達成のために、次年度は学期ごとに部活動ガイドラインを確認していく。 ・延べ時間が昨年度 1,268,664 分、今年度 1,252,087 分だった。 ・延べ時間が昨年度 259,700 分、今年度は 244,450 分だったため、差は 15,250 分となった。 ・ツイッターも開設し、170 回更新した。